

大江山

古今著聞集

【特徴】ジャンル：説話編者：橘成季(たちばな のりすえ)
成立年代：鎌倉時代 前期～後記

和泉式部、保昌が妻にて丹後に下りけるほどに、
和泉式部が安昌の妻として、
丹後の国へ下つて行つたところに、

京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられて
京で歌合せがあつたが、
(娘)小式部内侍、歌合せの読み手として選ばれて

過去・け・連用

受奪る連用

よみけるを、定頼の中納言、たはぶれに小式部内侍に、
歌を詠むことになつたが、定頼の中納言がからかつて小式部内侍に、

過去・け・連用

かがで〔書〕

「丹後へつかはしける人は参りにたりや。」
「丹後におやりになつた使者は 参りましたか。」

蔽・やる定ふ

過去・け・連用

謙・行・差・む・寔・な・け・連用 實・ち・経・係・結・處・簡

「丹後へつかはしける人は参りにたりや。」
「丹後におやりになつた使者は 参りましたか。」

在・本・屋・の・ほ

蔽・ゆ・連用 過・け・連用

と言い入れて、局の前を過ぎられけるを、
と声をかけて、 部屋の前を通り過ぎなさつたところを

貴・人・屋・か・づ・い・年・お・れ・登・券

小式部内侍、御簾よりながば出でて、

小式部内侍は、御簾から体を半分ほど出して、

畢竟の直衣の袖を引きとめて、

直衣の袖をひかへて、

大江山 いくの の道の 遠ければ

まだ ふみもみず

あまのはしだて
天橋立

とよみかりけり。思はずにあさましくて、

「こはいかに。」とばかり言ひて、返しにも及ばず、

袖をひきはなちて逃げられにけり。小式部、

歌よみの世おぼえ出で来にけり。